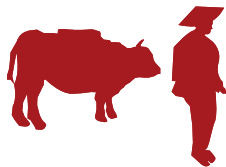


信濃大町

塩の道を歩く



The Salt Road Guide



塩の道「千国街道」は、新潟県糸魚川から北アルプス山麓を経て松本平に至ります。その歴史は古く、古事記の神話や「敵に塩を送る」という言葉に残っている上杉謙信と武田信玄の伝説などに通じるほどです。

かつては勾玉に使用されるヒスイが運ばれ、650年以上前の記録では「仁科千国口」とも呼ばれ、山国信州と日本海側を結ぶ重要な路線を使って、瀬戸内や北陸、越後方面から塩や海産物が運ばれていました。

当時、牛や馬が使われ、歩荷（ぽっか）と呼ばれる運搬人にも頼って物資が運ばれていましたが、いにしえの道は今、かつての荷物に代わり歴史や文化、ロマンを運んでくれます。

その街道にあって宿場町として栄えた信濃大町で、「塩の道歩き」をお楽しみください。



目次

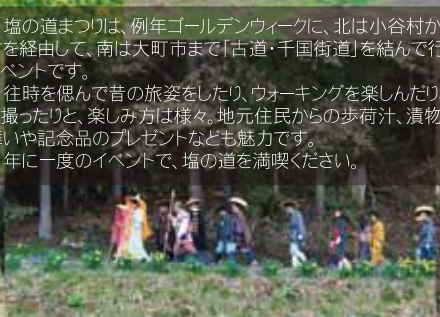
- 2 塩の道祭り
- 3 歴史と展望の街を歩く
- 5 塩の道マップ
- 8 文化と水の街を歩く
- 9 塩の道の道具
- 10 塩の道を知る



塩の道まつりは、例年ゴールデンウィークに、北は小谷村から白馬村を經由して、南は大町市まで「古道・千国街道」を結んで行われるイベントです。

往時を偲んで昔の旅姿をしたり、ウォーキングを楽しんだり、写真を撮ったりと、楽しみ方は様々。地元住民からの歩荷汁、漬物等の振舞いや記念品のプレゼントなども魅力です。

年に一度のイベントで、塩の道を満喫ください。





塩の道ちょうじや □大町は宿場町として栄え、そこで塩問屋であった旧平林家は、当時の姿を今に伝える貴重な建物として現在、「塩の道ちょうじや」となり、見学できます。□貴重な建物と資料の保存により、塩の道の歴史と文化を守っているほか、観光拠点、多目的施設などとして活用されています。塩の道が海と陸をつないだのと同じく、時代や人や地域を「つなぐ」施設となっています。【10Pで紹介】

□大町を治めていた仁科氏の屋敷から丑の方角にある寺であることが
名の由来とされています。また、静御前が夫の源義経を訪ね奥州へ向
かった際、乗っていた牛が疲れて突然座り込み、「牛や立て、牛や立て」と言ったのが由来と
いう説もあります。□寺院の後側には静御前の墓といわれている墓碑があり、「勸融院静円
妙止大姉、文治五巳酉年九月二十三日」と刻まれています。



佐々屋幾神社 □安曇の地を開拓したという仁品王が、宮本に仁科神明宮を建
立し、その参拝時に家臣であった日光白水朗の妹で、この神社の
御祭神となる妹耶媛を見初め、神社のある場所で愛を私語(ささや)いたという伝説が残っ
ています。□その後、私言(ささやき)が佐々屋幾(ささやき)と変化し、現在の神社に名が
ついたとされています。□塩の道沿いの森のなか、厳かな雰囲気を持つ伝説の地。

□大町市は北アルプスの麓に位置し、槍ヶ岳へ続く登山ルート「裏銀
座」の玄関口で、日本最古の山岳ガイド組織「大町登山案内人組合」を
有する岳都。□塩の道を歩けば数々の名峰を望む絶景が広がり、各所に写真撮影スポット
があります。□また、山々は季節によって姿を変え、春の雪形から夏の深緑、秋の紅葉、
真っ白な雪山まで、様々。四季の風景をお楽しみください。



盛蓮寺観音堂 □松本平最古、室町時代の特徴を持つ寺院建築国の重要文化
財で、文明2年(1470)に建てられた三間四面、寄棟造り、茅葺形
銅板葺きで、堂全体が阿彌陀堂形式の建物です。□鎌倉時代の本尊・如意輪観音像
(市指定文化財)と不動明王、室町時代の薬師如来像(市指定文化財)など貴重な文化
遺産も所蔵しています。

□平安時代に伊勢神宮の庄園を守るため、仁科氏により祭られた神
社で、国宝の本殿、中門、釣屋は、日本最古の神明造。室町時代初め
から現在までの遷宮の様子を伝える棟札や鎌倉時代に造られた銅製の懸仏、銅鏡、社
印なども残されています。□1000年以上にわたり20年に1度の遷宮が行われ、往古から
の伝統行事のうち古式作始めの神事や秋の大祭時の神楽も毎年とり行われています。



富本

● 盛蓮寺

● 月 佐々屋幾神社

秋葉神社

● 仁科神明宮

科神明宮

歴史と展望の街を歩く

②市街地コース▼

俵町

卅 若一王子神社

俵町二丁目

大黒町

文化会館入口

北大町駅

市立大町病院

東若宮町

大町駅入口

 示

男清水

九日

九日町

● 求午のトパーズ

栄町

面



100m







仁科三湖 □木崎湖、中綱湖、青木湖からなる仁科三湖は北アルプス山麓唯一の天然湖です。□県内有数の透明度を誇る青木湖、西側に群生するオオヤマザクラが美しく湖面に映る中綱湖、ウォータースポーツが楽しめる木崎湖と、それぞれに違った魅力があります。□葛温泉から引湯された木崎湖温泉も近く、温泉とプールが楽しめるゆ〜ぶる木崎湖も人気。

□平安時代の後期、大町周辺を治めていた仁科氏が戦乱などに備えて木崎湖畔の半島状になった地形を利用して築いた「水城」が森城で、現在は城址として保存されています。□かつての本丸城の跡には、仁科氏や明治以降の戦没者を祭る仁科神社があり、境内には承久の変で鎌倉幕府軍と戦った仁科盛遠の顕彰碑や古い塚、歌碑などもあります。



弾誓寺 □鎌倉時代中期、仁科氏の居館とともに現在の場所に移され、祈願寺となったといわれます。□各地に多くの仏像を残した木食山居上人が、観音堂の床下で入定したとの古い伝承が、近年の発掘調査によって確認されました。□仁科氏滅亡後の江戸時代初期、弾誓上人により再興されるも明治4年、廃仏毀釈により廃寺に。その後、曹洞宗寺院として再び興されました。

□仁科氏によって、町屋の裏側に飲料水である鹿島川の水、表に町川が流れる街がつくられ、この水を分配する要に、繁栄を願って若一王子神社が置かれ、仁科氏が信仰していた熊野権現那智大社を分社したと伝えられています。□三重塔や観音堂もあり、神と仏を一体とする「神仏習合」の色が見えます。毎年、全国でも珍しい子どもの流鏝馬などが行われる夏祭りが開かれています。



町屋 □街道の宿場町として栄えた大町には、町家造りの建物が多く残り、時代を飛び越えたような雰囲気を楽しめます。□町家は間口が狭く奥に長い「うなぎの寝床」と呼ばれる造りが特徴で、季節によって建具を換えるなど機能と美しさを兼ね備えた独特の雰囲気が味わえます。□市内には塩の道文化を紹介する「塩の道ちようじや」、地域の食が楽しめる「わちが」い、老舗酒蔵の市野屋商店などがあります。

□西に北アルプス、東に里山と湿原を有する山紫水明の地・大町市は、大きく分けて2種類の水を飲料水にしており、それぞれの特徴から「男」と「女」になぞらえています。□市内の商店街東側は標高900mの里山居谷里の湧水「女清水」、西側は北アルプスの上白沢の湧水「男清水」。水を育む自然とともに、名水の違いを楽しんでみてはいかがでしょうか。



男清水・女清水

蓑(みの)

雨や雪よけに背中に羽織った。わらで作るが、上には水をはじく、しなのきを使った。現代で言うカッパ



馬沓(まぐつ)

昔は蹄鉄がなかった為、蹄を守ったり、滑ったりしないように、馬や牛にも草鞋をはかせた。写真は馬用。



草鞋(わらじ)

わらで編んだ「ぞうり」。これを履いて山道や街道を歩いた。

雪の時は、わらじの上に雪よけとして「すっぺんじょ」と言われるわらじを重ねて履いた。



かつて塩の道を歩いた人々が使った道具が信濃大町「塩の道ちょうじや」に保存されています。野山の資源を巧みに使った品々の一部をご紹介します。



にずんぼう

歩くときに使った杖。また重い荷物を背負ったまま座って休むと、立つ時に大変なので、この棒をお尻につけて、つかえ棒のように使用し、立ったまま休憩した。



吠(かます)

わらで編んだ袋のこと。塩などを入れた。



はばき

靴の中に雪が入らないように足首周りに巻いて使用された。今でいうとスパッツ。

背負子(しょいこ)

荷物を運ぶ人、「歩荷(ポッカ)」が背負う道具。ここに14～16貫(約60kg)の塩を入れたカマスや海産物を背負って歩いた。

塩の道ちょうじや

千国街道を塩が行きかっていた時代に塩問屋だった旧平林家の建物は現在、「塩の道ちょうじや」となり塩の道の歴史や文化を紹介しています。

館内に残る「塩蔵」には、かつて街道を通して運ばれた塩が「かます」に入れて保管されており、積まれた塩から出る「にがり」を集めていました。

蔵の中には今も、にがりを溜める仕組みが残り、見学することができます。



庄屋であった旧平林家の建物は、明治22年の大火で消失し現在残っているものは、翌年に再建された商家です。

見事な梁や広間なども残り、塩の道の歴史とともに当時の生活を今に見ることができます。



〒398-0002

長野県大町市八日町2572

TEL:0261-22-4018

FAX:0261-23-5575

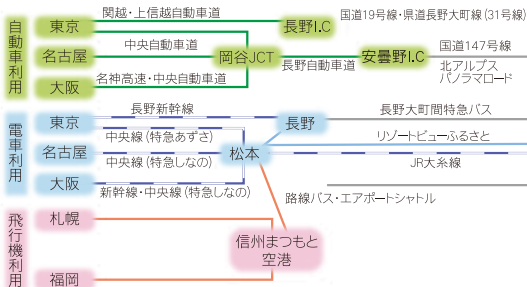
Eメール:shionomichi2572@gmail.com

HP:<http://www1.ocn.ne.jp/~saltroad/>

◇ 休館日 5月～10月毎月第3・4水曜日
11月～4月の毎週水曜日と年末年始



アクセス



信濃大町 塩の道



お問い合わせ

塩の道ちょうじや

長野県大町市大町八日町 2572

TEL 0261-22-4018

HP: <http://www1.ocn.ne.jp/~saltroad/>